

科目名 (Subject)	人文・社会科学特講 a		
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	後 期
担当教員名 (Name)	久保田 顕二 <Kenji Kubota>	研究室番号 (Office)	343
Office Hours	水 15:00~17:00		

1. 授業目的・方法 (Course objective and method)

少人数のクラス編成で、比較的平易な政治哲学的・倫理的な著作を輪読します。そこに書かれた内容の正確な把握を目指しますが、実は、今回は字面の理解にはそれほどの労を要しませんので、重点はむしろ、字面の背後にある、問題へのアプローチの仕方や問題の処理の仕方を学ぶことのほうに置かれます。また、参加者同士による意見交換にも多くの時間を割く予定です。これらの作業を通じて、現代社会が抱える深刻な倫理的・価値観的問題を適確に捉える眼力を養い、かつ、それらの問題に対する自らの態度を培っていきます。

取り上げる著作は、マイケル・サンデル氏が一般読者向けに書いた、比較的入手しやすい3点です（「3. 使用教材」参照）。氏は、問題の本質を見抜く慧眼とともに、その懇切で親しみやすい独特な議論の仕方によって、つとにわが国でも有名です。基本的には翻訳で済みます予定ですが、ただ、テキストのより正確な理解のためにはしばしば原典参照が必要ですので、一応、原典も扱うことにします。

2. 授業内容 (Course contents)

文献の輪読と参加者全員によるディスカッションが、全体を通じての主要な作業です。ただし、扱う参考書のすべてを、最初から最後まで逐一読むわけではなく、日本社会の現状や履修者の関心に照らして、特に大きな関心をもってそうな箇所だけを選んで読んでいきます。

さらにそれだけではなく、全体を通じて数回くらいは、参考書から離れた研究報告の機会も設けたいと考えています。したがって、自身の研究報告のほうを希望する履修者には、文献の輪読に向けた報告ではなく、何らかの倫理的・社会的テーマに関する、自分自身の独自のプレゼンテーションを行っていただくこととなります（ただし、テキストの内容とほとんど無関係な報告は避けてもらいます）。

その回では、輪読作業は中断して次のような授業運営を行います。まず、報告者が2, 30分間の報告を行い、それが終了したあと、全員が3, 4個の小グループに分かれて、その中で、報告された内容についてのディスカッションを行います。そして最後に、各グループ代表者が、それぞれのグループの中で出てきた意見をまとめて出席者全員に向けて簡単に報告します。

授業内容

第1回 オリエンテーション

第2~6回（うち1回をプレゼンに充てる予定）

授業内容： 市場原理に基づく「お金」の力、便利さと、そのことの限界（①の輪読がメイン）

第7~11回（うち1回をプレゼンに充てる予定）

授業内容： 「望ましい」子孫が欲しいという優生学的な願望の問題点（②の輪読がメイン）

第12~15回（うち1回をプレゼンに充てる予定）

授業内容： 道徳的に「正しい」とは、「正義にかなう」とはいかなることか（③の輪読がメイン）

予習課題等

輪読の回での予習課題

報告担当者： 読む予定の箇所の内容をまとめたレジュメを作成し、当日、全員に配布する。

履修者全員： 該当箇所を事前に読んでくる。

プレゼンの回での予習課題

報告担当者： A4用紙2枚程度で資料(研究報告の梗概、等)を作成し、当日、全員に配布する。

履修者全員： 前の週で予告されたテーマにつき、可能な限り情報の検索をしておく。

3. 使用教材 (Teaching materials)

マイケル・サンデル(Michael J. Sandel)の次の3点の著書(邦訳および原著)

- ① 『それをお金で買いますかー市場主義の限界』(ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2014年)
What Money Can't Buy: The Moral Limits of Markets, Penguin Books, 2009.

② 『完全な人間を目指さなくともよい理由—遺伝子操作とエンハンスメント』(ナカニシヤ出版、2009年)

The Case against Perfection: Ethics in the Age of Genetic Engineering, Harvard University Press, 2009.

③ 『これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学』(ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年)

Justice: What the Right Thing to Do, Farrar, Straus and Griroux, 2009.

上記のうち、2点の文庫本については購入を求めるかもしれませんが、原著を含めたその他については、すべてコピーで済ます予定です。

4. 成績評価の方法(Grading)

科目の性質上、試験やレポートを課することをせず、平常点のみによって評価します。ただし、仮に履修者が多くて一部の者には報告の機会が回らなかった場合には、レポートの提出をもって報告に代えることができます。

評価の要素と各要素の比率については以下のとおり(一応の目安)。

- | | |
|---|----------|
| 1. 出席状況 | 30% |
| 2. プレゼンテーション(テキストの一部に関する報告、
または、それ以外の研究報告) | 50% |
| 3. レポート課題 | 「2.」に準ずる |
| 4. 授業への積極的参加 | 20% |

5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

「4.」の諸点を勘案しつつ、総合的に評点を出します。ただし、科目の性格上、出席状況が著しく悪い場合は、他の評価要素の合計が60点を越えていても、単位の修得はほぼ不可能となります。

6. 履修上の注意事項(Remarks)